の生産能力は約百万枚で、今年三月に着工し来年一月に稼働する。

新工場ではノート型パソコンに多く使われる二・五ﾁﾝや携帯音楽プレーヤー、ビデオカメラなどの一・八ﾁﾝのガラス基板を生産。大容量化技術である垂直磁気記録方式のHD化にも対応できる。

国内から円盤状に加工したガラスを新工場に持ち込み、研磨加工機で磨

場が集積しつつあるためマレーシアに進出することにした。

オリックス

物流業務受託に参入

船井総研グループと提携

オリックスは船井総合研究所グループと提携し、企業の物流業務を受託する事業に参入する。国内にあるオリックスの顧客企業を対象に、船井総研グループのコンサルティング会社が効率的な物流システムを提案する。物流業務を全面受託して物流コストの削減を進める中小企業の需要を取り込み、先行する物流大手に対抗する。

物流業務の全面受託は

▼サード・パーティー・ロジスティクス（3PL）

顧客企業から物流業務を全面的に請け負うこと。商品の運搬だけでなく、拠点や配送網の整備、日常の在庫管理なども助言したり請け負ったりする。米国では一九九〇年代から広がった。日本でも近年、導入の動きが出ている。

サード・パーティー・ロジスティクス（3PL）と呼ばれ、需要が拡大している。オリックスは物流システム構築のコンサルティングを手がける船井総研ロジ（大阪市）と連携する。物流業務に適した場所に倉庫を確保して効率的な在庫管理システムを設計。顧客に代わって資材の調達や商品の販売も手掛ける。金融事業のノウハウを生かし、資金回収や支払いの代行などでも業務効率化を支援する。

不動産開発子会社のオリックス・リアルエステート（東京・港）が千二百億円を投じて取得・開発する二十一の物流施設も活用する。同子会社の施設設計のノウハウも生かす。運送に使うトラックなどは、オリックス自動車（同）がリースする。

実績を調べた。

ビスタ発売週（一月二十九日―二月四日）の販売台

ビスタ発売当日の販売台数は、前年比一四%増だった。一方、日本経済新聞社が

二十万円前後の機種が売れ筋。地上デジタルチューナー内蔵のソニー「VGC―

人も半数近くいた」（商品担当者）としている。「ビスタをあまり知らない

パ
42

ゼロ成長の国内市場

M&Aで海外に活路

製薬業界の主なM&A

2001年 三菱製薬東京 ウェルファイド 01年合併 三菱ウェルファーマ
02 日本ロシュ 中外製薬 02年合併、ロシエが子会社化 中外製薬
03
04 住友製薬 大日本製薬 藤沢薬品 山之内製薬 三共 第一製薬 武田薬品 05年買収 米シリックス 05年統合 第一三共
05 05年合併 アステラス製薬 売却 ゼファーマ 06年買収
05年合併 大日本住友製薬 田辺製薬
06
07 07年合併 田辺三菱製薬

など上位五社の海外売上高比率はいずれも五割前後だが、十月に誕生する田辺三菱製薬など六位以下のメーカーは一割前後のケースが多い。早めに再編のバスに乗らないと、世界への切符を逃がすという焦りが中堅各社を突き動かす。

先行大手も海外攻勢を強める。武田はひそかに欧州企業の買収を考えている。すでにスイスのバイオ大手セローノなど複数の企業を買収対象として検討。条件が合わず交渉入りを断念したが、情熱は衰えていない。

武田の売上高に占める米国の比率は五二%（関連会社含む）に達するが、欧州は一四%。欧州市場でのシェアは一%と影が薄い。長谷川閑史社長は買収で一気に勢力を拡張する考えだ。

昨年末には欧州統括会社の社長にスイス・ノバルティスの元幹部を引き抜いた。

「米国で成功してもグローバルには勝者とは言えなくなった」。アルツハイマー型認知症治療薬「アリセプト」など世界的な大型薬を持ち、武田以上に国際化が進むエーザイの内藤晴夫社長も多極化に余念がない。国内各社に先駆けて今秋にもインドに工場を設ける。

武田などが日米二極経営から多極化に軸足を移すのは、地域リスクの分散が重要になっているためだ。米国では昨秋の中間選挙で民主党が勝利を収めた。「公的医療保険の拡大や薬価引き下げを目指す民主党政権になれば製薬業界は打撃を受ける」（外資系アナリスト）との見方が強い。

とはいえ、世界最大の市場である米国での地位向上が日本勢の最優先課題であることに変わりはない。「米国各地のバイオビジネス関連会議で武田のブースをよく見かけるようになった」（米バイオベンチャー社長）。武田はベンチャーとの提携や買収の地ならしを急ぐ。アステラス製薬も米国でバイオベンチャー向け投資会社を設立した。

「製薬M&Aの流れは止まらない。三菱ウェルと田辺の合併はその第一弾だ」（アステラスの田村隼也副社長）。両社が鳴らした再編の号砲。合併会社の規模は国内六位だが、業界に与えるインパクトは大きい。

田中直巳、佐藤昌和、梁谷好信、松崎雄典が担当しました。

あしたを、つなぐ―― 野村不動産グループ
新しい不動産ビジネスへの挑戦。
野村不動産

三菱ウェルに創薬事業を移管

三菱ケミカルHD

三菱ケミカルホールディングスは六日、グループ会社のゾイジーン（横浜市）が持つ創薬関連事業を四月一日付で三菱ウェルファーマに移管すると発表した。新薬候補化合物の設計・合成など創薬関連の技術を三菱ウェルに統合し、新薬の研究開発能力を高める。約十五人がゾイジーンから三菱ウェルに移る見通し。

1月2.2%に低下

都心、需給逼迫続く

オフィス市場調査の生駒データサービスシステム（東京・港）が六日までとめた一月末の東京都心のオフィス空室率は二・二%となり、前月末比〇・一ﾎﾟｲﾝﾄ低下した。貸し手優位の目安とされる三%を下回るのは十一カ月連続。社員の採用を増やす企業も多く、オフィス需給の逼迫（ひっぱく）状態が続いている。

調査対象は都心五区（千代田、中央、港、新宿、渋谷）。二十三区の空室率は二・六%で、前月末比横ばいだった。

強い会社をつくる経営情報誌
日経BP社
経営の